

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	159	科目名	化学物質総合管理学事例研究2	サブネーム	食とリスクアナリシス
共催機関名		レベル	中級	講義枠	木曜日 講義時間 18:30~20:00
科目概要	食という複雑系メディアにおける、化学物質、生物のリスクアセスメント、リスク管理、リスクコミュニケーションの問題を取り上げる。食を取り巻くさまざまな状況、特殊な要因について理解を深め、食の分野のリスクアセスメントと管理を考える上で重要な問題を理解する。後期では、前期の講座(化学物質総合評価管理学特論5)で習得された基礎知識を背景として、バイオテクノロジーを含む様々な食に係わる事例研究により食のリスク評価・管理のあり方を学ぶ。後期の受講者には、前期の講座も受講すること、あるいは同等の知見を有することを希望する。				

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
食中毒と自然毒、微生物(1)	2	食中毒・自然毒	日本における食中毒の原因として天然由来による毒性物質によることも多い。天然の毒性物質について、そのリスクと管理について考える。	10月4日	共通講義棟 2号館 102	西島基弘	実践女子大学
食とリスクアナリシス	1	概論:食品とリスクアナリシス	シリーズの内容を紹介するとともに、シリーズに一貫した基本となるリスクアナリシスの枠組みを示す。前期の基礎コースの内容を復習する。	10月11日		福富文武	お茶の水女子大学 LWWC
食中毒と自然毒、微生物(2)	3	食品媒体感染症の実態とその予防対策	現在の日本および諸外国の食品媒介感染症の実態・感染機序・リスク衛生管理を明らかにするとともにその予防対策についていかにあるべきかを論じる。	10月18日		上田成子	女子栄養大学
	4	有害微生物	食品を腐敗させたり、人の健康を損ねたりする微生物について事例を紹介する。また、微生物の有効な検出法を駆使して微生物のリスクアセスメントのための予測微生物学についても紹介する。	10月25日		天野典英	サントリー(株)
食品照射	5	食品の照射殺菌	食品の有効な殺菌法として国際的に取り入れられている放射線照射技術による殺菌による食品のリスク管理について論じる。	11月1日		小林泰彦	独)日本原子力研究 開発機構
食品加工	6	食品加工における食品成分の変化	食品加工における食品成分の変化について、リスク管理の観点から考える。最近欧米で話題になったアクリルアミドについては、国際的な協調体制の下での取り組みが行われているが、その枠作りと対応についても考える。	11月8日		安藤 進	山崎製パン(株)
食品保蔵・保管	7	食品の保蔵・保管	生産された食品の保蔵、保管は、食品の衛生・安全の確保のために重要である。	11月15日		高野克己	東京農業大学
	8	食品容器	加工食品の多様化により食品容器も多種多様化してきた。また、その素材における安全性についての議論が繰り返されている。食品容器の現状とそのリスク管理について考える。	11月22日		阿南幾代	ポリオレフィン衛生協 議会
品質保証	9	安全性確保のための品質保証活動	食品生産から食卓までの食品の流れの過程で、食品に関わるリスクを管理するためにとられる総合的な品質保証システムを紹介する。	12月6日		山本宏樹	(株)ニチレイ
水とリスク管理	10	飲料水	安全な飲用水である上水道の水質に対する懸念から、ミネラルウォーターの人気が高まっている。飲用水のリスクについて考える。	12月13日		峯 孝則	サントリー(株)
モダンバイオテクノロジー	11	モダンバイオテクノロジーの食に与えるインパクト	食品分野におけるバイオテクノロジーを中心とする技術革新の展開とそのインパクトについて概説する。	12月20日		橋本昭栄	サントリー(株)
BSE	12	BSEと鳥インフルエンザ	牛において発生したBSEとヒトにおける新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が発症するリスク、また高原病性鳥インフルエンザの発生とヒトへのリスクについて概説する。わが国と諸外国におけるリスク管理のアプローチの相違についても考える。	1月10日		唐木英明	東京大学名誉教授
健康食品機能性と安全性(1)	13	機能性食品	薬(医)食同源の考えを背景に、食品、食品成分の三次機能に着目して実用化されている機能性食品は、わが国では特定保健用食品の表示制度のなかで社会的な地位を得ている。国際的にも、その定義、評価法、表示のあり方等が議論されている。このような新タイプの食品のリスク管理について考える。	1月17日		末木一夫	NNFA Japan
まとめ	14	まとめ:総合討論	食の安全をキーワードとして進められてきたこの講座で習得したリスク管理について復習しながら、我が国におけるこれからのリスク管理の普及と推進のためにどのような努力をするべきか。講師と受講者との討論する。	1月24日		福富文武	お茶の水女子大学 LWWC
健康食品機能性と安全性(2)	15	サプリメント・ハーブ	表示制度の中で食品として認められているサプリメントは、代替医療の手段として海外でも使用が進んでいる。使用レベルの設定等におけるリスク管理について、事例研究を踏まえて考慮する。	1月31日		人間文化40 5	末木一夫

2007/7/6 講義No.1と2の日程変更。2007/9/14 教室の決定。2007/10/12 講義No.3と4の日程入れ替え。2007/11/2 講義日12月20日から1月31日の5講義の入れ替え。